平成20年度　京都府立網野高等学校　学校経営計画(スクールマネジメント)　(中間評価　平成20年10月末)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　生徒信条にある「青年は未来を信じ使命に生きる」立派な若人を育てるため、「自律と自立」の精神を養う。 2　学校行事、部活動、ボランティア活動を通じて調和の取れた人間を育成する。 3　基礎基本を徹底し、学力の向上を図り、希望進路を実現させる。	(成果) 1　学力向上フロンティア校「ホームスタディ100分プロジェクト」の実施により、学習指導のベクトルが揃い、学力向上に向けて活力が出てきた。 2　進学指導体制が整い、網野高校始まって以来の国公立大学合格者22名を出すことができた。 3　危機管理体制が整備され、生徒の盗難など皆無となり、安全安心の学校づくりを行うことができた。 4　PTA総会の日曜日開催、保護者全員面談など保護者連携が大幅に前進し、学校に対する保護者の信頼を得ることができた。 5　レスリング部、体操部、美術部を始めとして、全国大会や近畿大会での活躍など、活発な部活動が展開された。 (課題) 1　「ホームスタディ100分プロジェクト」をさらに発展させ、学力向上の指導を定着させる必要がある。 2　生徒会活動を活発化させ、生徒の自主活動を積極的に展開する必要がある。 3　8割以上の部活動加入を促し、クラス減に負けない活気のある網野高校を目指す必要がある。	1　「3アップ＋1」の運動を推進する。 (1)　マナーアップ(自制心･豊かな心) (2)　クリーンアップ(ボランティア精神･環境美化) (3)　パワーアップ(学習と部活動の両立) (4)　＋1アップ(各自が課題を設定し、その解決に向けて努力する) 2　学力向上フロンティア事業「続･ホームスタディ100分プロジェクト」を実施する。 3　保護者連携を推進し、開かれた学校づくりを行う。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織･運営	･学校全体の指導力を高め、学力向上や希望進路の実現、部活動のさらなる活性化をめざす。	･続･ホームスタディ100分プロジェクトを成功させるため、教員の指導力を高めるための研修を学期に２回以上実施する。				・教職員研修の回数は、現在目標回数に至っていない。３学期には２回以上実施したい。 ・「アカシヤの丘」は４月に発行ができなかったが５月以降は毎月１回発行を続けている。 ・お知らせメールについては、各所との連携・連絡をスムーズに行い、５月からスタートさせることができた。
	･開かれた学校をめざし、さらに地域や保護者との連携を強化する。	･本校の情報を広く発信する。広報誌「アカシヤの丘」を年１２回発行する。				
		･ＰＴＡお知らせメールのシステムを確立し、６月から本格稼働させる。				
事務部	･開かれた学校としての窓口業務を的確に行う。	･相手の立場に立って　親切で確実･迅速･丁寧･爽やかな対応をする。				・全般的に確実な対応が出来ているが、より一層確実な対応に努めていきたい。 ・接遇マナー講座に参加し、接遇の基本を確認することができたので今後に生かしていきたい。 ・　一斉見回りは出来ていないが、それぞれ担当（衛生管理者、施設担当・技術職員）での見回りは出来ている。 ・危険箇所等については、教職員からの情報もあり早期に対応が出来ている。 ・自習室の壁面の改修を行った。
		･受付業務をとおして、来校者の把握を確実にする。				
	･施設設備の安全管理の徹底と学習環境整備を行う。	･校舎内一斉見回りを月1回行い、危険箇所等の早期発見に努める。				
		･学習環境を整える。（学習室の整備をする。）				

教務部	･家庭学習の習慣化による学力向上を図る。	･学習指導室や学習資料室を整備する。				・学習指導室と自習室を整備することができた。 ・授業時間数の調査は、１学期に３回、２学期も既に１回実施した。今後定期考査後の家庭学習時間が大幅に減少することを防ぐ手立てを考える必要がある。 ・諸行事など連携して円滑に行えているが、他分掌等との連絡不行き届きの場面もあったので、改善したい。 ・教務ホームページは出張状況を中心に毎日更新できている。 ・学校行事の関係で８月に予定していた読書週間を実施できなかった。新たに２月に設定したいと考えている。 ・竹岡先生コーナーや瀬尾さんコーナーを設けたり、定期的に図書館便りを発行するなど広報活動に努めている。昨年度同時期より貸出冊数は増加している。
		･学習時間調査を学期２回行い、生徒にフィードバックすることで、年度当初より年度末に家庭学習時間が増加した生徒を100%とする。				
	･授業や行事を円滑に実施する。	･各分掌との連携を密にして調整を図る。				
		･校内教務部ホームページを毎日更新する。				
	･読書習慣を定着させる。	･読書週間を年３回設定する。				
		･図書室についての広報活動を強化し、貸出冊数を生徒一人あたり5冊以上とする。				
第1学年部	･学習習慣を確立し、進路目標を育む。	･教科書の持ち帰り指導を行い、家庭学習の充実を図る。				・教科書の持ち帰りについては、限られた生徒ができていない。今後も生徒の意識を変えることを目的として継続した指導が必要。 ・進路目標を持つ生徒はまだ少なく、進路調べ学習、進路ガイダンスをてこにし、さらなる指導が必要である。 ・生徒部、体育科等の協力もあり約８割の生徒が部活動に参加している。 ・今後も保護者と学校の連携を密にすることに努める ・ベル着指導については、ある程度できているが、今後も継続した指導が必要である。教科担当者の協力も必要である。また、ゴミの分別、ポイ捨て等にも指導の余地がある。
		･個別面談を学期に1回〈年3回以上〉実施し、個々の生徒に応じたきめ細かな指導により進路目標を持たせる。				
	･基本的生活習慣を確立し、規範意識とマナーを身につける。	･部活動･ボランティア活動への積極的な参加を促し、8割以上の生徒を部活動に参加させる。				
		･保護者との連携を密にして、保護者と学校が一体化した生徒の指導を行う。				
		･ベル着を徹底(１００%)させ、時間の大切さと規律ある学校生活を指導する。				
第2学年部	･進路希望を明確にし、進路実現に向けての基礎固めに努める。	･個別面談を年間3回以上実施し、進路希望未定者を5%以内とする。				・個別面談、家庭学習については現在指導中であるが、目標達成の見通しを持っている。 ・模試・講習に関して、文理科系の生徒については、ほぼ全員が受験しており、目的は達成できている。文系については、冬季学習会も含め、今後も指導の必要あり。 ・服装・頭髪については極端にひどい生徒はいないが、修学旅行をひかえ、今後も継続して指導していきたい。 ・保護者との連絡が生じたときは、できるだけ早い対応を行っている。
		･続･ﾎｰﾑｽﾀﾃﾞｨｰ100分ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの趣旨を理解させ、家庭学習0の生徒を5%以内とする。				
		･Ｉ類生徒の進学講習･模擬試験受験を促す。				
	･社会の一員としての自覚を促し、社会的なマナーを身に付けさせる。	･常に服装･頭髪･言葉遣い等、生徒の変化に気づき、生徒への声かけに努める。				
		･保護者との連携を密にし、生活実態の把握に努める。				
		･規律ある行動で、修学旅行を成功させる。				
第3学年部	･規範意識を高め社会的なマナーを身につけさせる。	･身だしなみ指導を日常的に行う。				・悪質な服装の違反は少ないが、化粧やカーディガンなど課題も残っている。 ･全体としては欠席・遅刻とも少なく抑えられている。 ･遅刻特別指導対象生徒は１０月末時点で３人であった。 ・一定のレベルは保てているので、今後も継続して取り組みたい。 ･連携を心がけた指導が行えていると思うが、今後も一層の連携強化が必要である。 ･進路指導部の模擬面接も含めておおむね２回から３回行っており。一定の成果が現れているように思われる。 ・まだ結果がでていないので、数値目標が達成できるよう、取組を継続して行いたい。
		･欠席・遅刻の多い生徒に対して、保護者と連携を密にとり、遅刻特別指導生徒数を０とする。				
		･教室環境を整備する。				
	･学力の充実と、生徒一人一人の進路目標の実現を図る。	･本人・保護者・担任・進路指導部が綿密な連携をとる。				
		･面接が必要な生徒に３回以上模擬面接を行うなど、面接指導を充実させる。				
		･進路講習・土曜セミナーなど進路指導の取組を充実させ、国公立大学合格率７０%以上、就職内定率１００%を実現する。				

保健部	･自他の生命を大切にし、自らの心身を自主管理できる生徒を育成する。	･生徒の生活実態に合わせ、生徒自らの健康を自主管理させるため、保健だよりを月1回発行する。				・保健便りの発行は、月１回できている。 ・組織的な学校教育相談活動については関係分掌との連携は密にできている。 【課題】 ・教育相談会議の定例化が図れないか。 ・環境を大切にするでは、清掃点検を週１回できている。
	･組織的な学校教育相談活動を推進する。	･関係分掌や関係機関と連携し、生徒への支援体制や学年へのサポート体制を確立し、個別指導を充実させる。				
	･環境を大切にする生徒を育成する。	･教室の整理整頓、日々の清掃活動、ゴミの分別収集を徹底させるため、生徒美化委員会の清掃点検を週1回行う。				
生徒指導部	･「自律と自立」を念頭に学校生活上の規範の指導を行う。	･規範意識とマナーを向上させる。				成果 ・定期的な服装頭髪指導を実施することが出来た。 ・生徒減を見据えた学校祭・部活動等の見直しを行い、来年度以降への方向性を出すことが出来た。 課題 ・服装頭髪・授業態度に対する指導について教員間の共通理解のもとで全教職員による指導をより充実させる必要がある。 ・ボランティア活動の底辺の拡大はある程度図られたが、活動内容を充実させていくことが求められる。 ・クラブ加入率は８割に達しなかったが、退部者をより少なくしていくことが現段階では重要である。 ・新に、２学期になって遅刻者の増加が２・３年生を中心に増加しており、顕著な生徒に対して、学年（担任）・家庭・生徒部が連携して、声かけなどの対応が必要である。 ･現在のところ、計画通りに人権学習を進めることができている。 ・新たに入れた「講演」「ビデオ教材」は良い内容であったという感想が多かった。 ･研修の参加者がやや少なかった。また、講演内容が少し抽象的であった。
		･授業の規律確保と定期的な服装頭髪指導を行う。				
		･クラブ部員としての自覚を高めるため、クラブ部員集会を学期に1回行う。				
	･部活動、学校行事を充実する。	･学年部、保健体育科と連携し、部活動入部者の増加に努め、8割以上の加入率とその継続を実現する。				
		･生徒数減を見据えた行事の在り方を検討し、1学期中にプランを提示する。				
	･ボランティア活動を発展させる。	･「1クラス･1クラブボランティア」の取組をすべてのクラス、クラブが行う（100%実施）。				
	･人権問題を自らの生き方の問題としてとらえ、実践する態度を育成する。	･各学年の人権学習の時間を年間３時間以上確保し、人権問題についての理解を深めさせる。				
		･研修の実施、そのアンケート集計等をとおして教職員の人権意識の向上させる。				
進路指導部	・生徒の希望進路の実現	･将来の目標に向かって生徒が主体的に学習する機会を与えるため、進路関係の取組を充実させる。				・１年生夏季学習合宿の会場、取組内容を改善した。 ・専門学校等のガイダンスの機会を増やした。 ・高大連携を意識し、大学等で行われる講習会・模擬業等への積極的な参加を促した。 ・就職内定率は、１０月２３日現在で 84.6 %。不調の生徒が２名おり、指導を継続中である。
		･進路HR、進路講習、模擬試験等の取り組みを通じて、国公立大学の合格率を70%以上に、就職内定率を100%にする。				
企画経営科	･特色ある専門教育を推進する。	･社会人講師を活用した専門性豊かな授業展開と、検定・資格取得を目指した授業改善、指導体制を確立する。各検定３級合格率８０%以上を目標とする。				・第一回丹後活性化プレゼンテーション大会が開催できたことは大きな成果である。 ・各検定に向けて、現在対策講習を実施している。 ・現在７０%以上の進路が決定している。 ・中学校を訪問しての説明会や学校で行う中学生体験学習等で中学校と連携している。広報誌は11月に　発行予定である。
	･学力の充実と進路希望を実現する。	･生徒の適性と個性に応じた授業を推進し、専門教育の特色を活かした進路指導を充実させる。				
	･中学校及び地域社会との連携を図る。	･地域への積極的な広報活動を推進することにより、中学校・地域社会と連携する。広報誌を年 2 回以上発行する。				

国語科	・学習方法を確立させる。	・学力・進路希望に合った学習方法を確立させ、授業アンケートで「家庭学習がしっかりとできた（「だいたいあてはまる」も含めて）」と回答する生徒を80%以上にする。				・第１回授業アンケートの結果、「予習・復習がしっかりとできた（「だいたいあてはまる」も含めて）」と回答した生徒は全体の 46.7 %であり、家庭学習の習慣の確立という点では不十分である。 ・スピーチやプレゼンテーションなどに取り組んで「話す・聞く能力」を高め、小論文・創作などに取り組んで「書く能力」を高めることができた。 ・１年生に対して図書館オリエンテーションを実施し、ブックレビューにも取り組んだ。１、２年生は夏季休業中に読書感想文の課題を出した。 ・２年生第１回の府立高校実力テストでは、偏差値５０以上の生徒は、普通科 47.5 %、企画経営科 41.4 %であった。
	・自分の考えを導き出す。	・言語活動を活発に行い、主体的に考える能力を高める。				
	・適切な日本語で表現する。	・言語事項や文章表現の指導を充実させ、小論文利用入試の合格率を80%以上にする。				
		・読書習慣を身につけさせる。				
	・文章知識、読解力を高める。	・様々な文章を的確に読解させ、府立高校実力テストにおいて、偏差値50以上の生徒を70%にする。				
地歴公民科	・指導の工夫を行い、基礎基本を定着させる。	・定期テストごとに授業ノートを提出させ、記入状況を点検する。				・授業ノートは、これまでのところ、ほぼ達成できている。 ・夏季課題は、現在、継続指導中である。 ・これまでのところ、ほぼ達成できている。未提出者への指導等を今後工夫していきたい。 ・１学期は、３年生でも実施した。 ・課題は全員が提出し、確認テストも夏休みの最終テストまでに全員合格した。
		・現代社会の夏季課題として「小論文」を課し、100%回収し、評価に入れる。				
		・2年生の文系・文理科系・Ⅱ類で週末課題を実施する。				
		・1年生の春季休業中に地理確認課題を出し、確認テストを実施する。				
数学科	・基礎学力を定着させる。	・毎週，宿題を出す。1年生・2年生においては2週間に1回小テストを実施する。				・宿題については，ほぼ毎週出す形が定着している。小テストについては，1 年生では 2 週間に 1 回のペースで実施できている。2 年生については，不十分さを残している。 ・学力伸長のための講習は計画通り実施できている。チャレンジ問題は，定期テスト中を除いて，2 週間に 1 回のペースで掲示はできているが，提出者が少ないのが課題である。
	・学力を伸長させる。	・全学年において講習を実施する。チャレンジ問題を2週間に1回掲示し，挑戦させる。				
理科	・理科に対する興味・関心・探求心を高め、身の回りにある自然現象に対し、科学的な視点で物事を捉えることができる力を育成する。	・各講座で年間５回以上の実験・実習を行う。				・実験や実習の回数についてはおおむね達成しつつある。 ・研究授業などを行い、教科内の連携を深めることができた。 ・小テストや宿題を定期的に実施し、家庭学習の習慣化に繋げることができた。 ・ＳＰＰ（サイエンスパートナーシップ）で特に１年生の理系への興味関心を高めた。
		・教科内の連携を図り、授業内容の工夫や、教師力向上に努める。				
		・小テストや、宿題等を定期的に実施し、生徒が家庭学習を習慣化できるような取組を促進する。				
		・理系進学者４０%以上を目標に、講習などの進路希望実現に向けた取組を効果的に行う。				
保健体育科	・課題に対して、生徒自ら考え工夫し、解決する力を育成する。	・網高体操のテスト（1年生）を1学期授業内で100%合格させる。				・網高体操は1学期中に全員合格。現在、あわせることを目標に指導中。 ・継続して行っている。特に修学旅行を控えている2年生を重点的に行う。 ・1年生は3学期に実施予定（2・3年生は実施済み）。
		・学期に1回以上の集団行動を実施し、規律・規範意識を高める。				
		・生徒全員に心肺蘇生法の実習をさせる。				
	（音楽）・音楽の基礎的な表現方法を身につける。	・１年間を通し階名唱や発声など繰り返し練習する。				・楽譜の読みについて、毎回、授業の最初にソルフェージュのコンコーネ（階名で歌う）に取り組んでいる。発声面は、響きのあるベルカント唱法を少しずつであるが身に付いてきた。 ・創造的な表現の仕方をさらに身に付ける練習をしたい。
		・旋律やリズム、歌詞など楽曲の内容分析を深める。				
	（美術）・創造的な表現と鑑賞する能力を向上させる。	・テーマに応じて明暗や遠近法等の基礎基本を徹底する。				

芸術科		･創造的な表現方法の模索のため、多くの作品を鑑賞する機会を設ける。			･作曲者が何を伝えようとしているかなど、楽曲の分析をした。まだ楽曲の内容分析が浅いので今後の課題。
		･各種コンクールに年間3回以上応募する。			･制作の中で創意工夫・基礎的技術を習得している。 ・鑑賞表現は裏表一体のもとで今後は鑑賞することにより創造的な表現ができるように教材の内容を精選していきたい。 ･他クラスの優秀作を毎回展示し紹介している。またプロジェクター等を利用し有名作家の作品の特徴、コンセプトを説明した。 ・今年の冬の教育美術展に多数出展するものの、今年の作品が来年に出展されるため年間３回の応募目標を達成することができなかった。特に授業の生徒が表彰される機会を設けていきたい。
	（書道）･鑑賞する力をつけ、自己表現の力を養う。	･授業規律を確保する。			
		･古典の臨書を通してよいものを鑑賞する力をつけ、書の基礎基本を習得させる。			
		･創造力をつけ、個性豊かな自己表現ができるようにする。			･鑑賞活動が少なかったので今後の授業の中で鑑賞活動を充実させたい。非常に個性的な作品が多く、楽しみながら書いているので自己表現をしようとする姿勢を感じた。美術書道展に向けその表現力をさらに伸ばしたい。 ･道具の忘れ物、教室の使い方など課題がある。 ･古典の臨書については地道に努力を重ねている。その成果も出てきている。
英語科	･学力、コミュニケーション能力の伸長を図る。	･全授業で毎回必ず宿題を出し、家庭学習の習慣を形成する。			・宿題提出はほとんどのクラス、講座で達成できている。しかし、一部でできていない時期、回があるので１００％を目指したい。 ・週１回のテストは単語テストを中心にほぼ毎回テストを行っている。小テスト対策が家庭学習となるように計画している。 ・教師の発話５０％はほぼ達成している。ただし、３年生のオーラルでは入試対策として、一部長文を読んだり文法問題にも取り組んでいるので、その際には日本語での説明となることもある。 ・研修はこれまでに参加したり、近日中に参加するものいる。現在のところまだ参加していないものも今後参加できるよう日程の調整などを進めている。 ・他教員授業は英語のみならず、多くの授業を見学している。また、校外でも授業の達人の授業や、センター道場の授業を大宮中学の連携特別授業を参観した。 ・英検は第１回においては受験者の５７％が合格した。２次試験対策として複数回面接練習を重ねた成果ができた。今後も２次試験対策を中心に取り組んでいく。
		･英語Ⅰ, Ⅱ, ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞにおいては週1回は必ず小ﾃｽﾄを行う。			
		･オーラル系の科目では教師の発話の50％以上を英語にする。			
		･年間を通じ、必ず1回は英語に関する研究会もしくは研修に参加する。			
		･教務部が主催する研究授業以外に、必ず1度以上は他の教員の授業を見学し、授業改善に努める。			
		･実用英語技能検定の合格率を昨年度の20．5％から25％まで引き上げる。			
		･府立高等学校実力ﾃｽﾄにおいて、第1回の全体の平均偏差値を第2回に2ﾎﾟｲﾝﾄ引き上げる。			

家庭科	･生活科学の基本的な知識・技術を定着させる。	･提出物一覧表を作成し、生徒に意識させる。				･提出状況の自覚はより高まったが、提出が遅れている生徒への指導を工夫しなければならない。 ･家庭基礎、家庭総合、生活技術では8時間、フードデザインでは10時間行った。 ･調理室を使用している講座では周知徹底できている。また、安全管理のために機械類の取扱説明書を掲示した。しかし、家庭科以外での調理室の使用については検討が必要である。
		･実験･実習を家庭基礎、家庭総合、生活技術では15時間、フードデザインでは20時間行う。				
	･食中毒を予防する。	･調理室の使用について周知徹底し、安全管理に注意する。				